

令和6年12月3日～5日

鳥羽市議会会議

一般質問通告者一覧表

発言通告者	議席番号	5 番	氏 名	南 川 則 之
件名及び 要 旨	○ 市職員の働き方改革について 市民のための市役所を目指すには、効率的で効果的な行政運営を行う必要がある。そのためには、能力・態度において優秀な人材確保をすることが必要不可欠である。 本市においても職員の取り巻く環境は大きく変化し続けており、人材育成の重要性がますます高まっている。また、社会と公務の変化に応じた給与制度の整備が必要であり、職員が仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を実現し、全職員が多様な働き方が出来、働きやすい職場環境の整備に取り組むことが急務である。 そこで9月定例会一般質問で一部確認した内容を踏まえ以下の点について問う。 ① カスタマーハラスメント対策について ② 職員の超過勤務及び休暇取得の現状と課題解決について ③ 職員の業務改善、手当等の見直し及び地域手当の実施について ④ 市長が考える「目指す職員像、求められる職員像」について <市長、副市長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	5 番	氏 名	南 川 則 之
件名及び 要 旨	○ 坂手町において誰もが暮らしやすいまちづくりについて 鳥羽市の人口は、令和6年10月末現在、16,432人、うち65歳以上の高齢者数は6,799人、高齢化率は41.4%である。 その中でも坂手町は、人口238人、うち65歳以上の高齢者数は173人、高齢化率は72.7%であり、高齢化が進む坂手町において誰もが暮らしやすいまちづくりを行うため、自助や共助による住民同士の助け合いは勿論のこと最大限の公助支援も急務である。 そこで以下の現状、課題及び対策について問う。 ① 65歳以上の高齢者世帯及び独居高齢者世帯の実態について ② 住民参加の地域福祉活動支援及び高齢者見守り支援の充実について ③ へき地診療所の運営、診療所体制及び離島救急患者搬送について ④ 鳥羽市空家等対策計画に基づく実態と対策について ⑤ 津波避難場所への誘導及び避難場所の充実について ⑥ 誰一人取り残さない防災を目指すための個別避難計画について ⑦ 漁港整備事業に伴う坂手漁港護岸保全工事の進捗について ⑧ ケーブルテレビの海底ケーブル断線後の市の対応について ⑨ 市長が目指す「坂手町において誰もが暮らしやすいまちづくり」について <市長、副市長、教育長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	9 番	氏 名	戸 上 健
件名及び 要 旨	○ 市民が安心して年を越すための施策について 2024 年は鳥羽市民にとって物価高騰、生活困窮に苦しめられた一年だった。年の瀬の 12 月、無事に年を越し新しい 2025 年を希望に満ちて迎えたいと多くの市民は願っている。行政と議会はその期待に応える責任を負っている。 そこで以下の諸点について問う。 ① 年収が 103 万円を超えると手取りは減るのか。パートで働く主婦も「103 万円の壁」があるのか。 ② 所得税の課税最低限を年収 178 万円に引き上げた場合の市財政の減収額はどれだけと推計できるか。 ③ 新型コロナワクチンの補助について。 ④ 改定マイナンバー一括法による健康保険証廃止に伴う「短期被保険証（短期証）」廃止への対応と障がい者への配慮をどうするのか。 ⑤ 人口減と水道料金、南勢水道受水費軽減と耐震化財源確保の方向をどのように考えているか。 <市長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	9 番	氏 名	戸 上 健
件名及び 要 旨	○ 文化振興と平和教育推進について 11 月 3 日は文化の日として定着している。鳥羽市民文化祭も多彩に開催された。文化と平和は切り離せない関係であり日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）のノーベル平和賞受賞も市民の間で高い関心を呼び核兵器廃絶への思いが強まっている。 そこで以下の点について問う。 ① 日本被団協のノーベル平和賞受賞に対する市長の所見、再来年は「非核平和都市宣言」40 周年を迎えるが新たな取組をどう展望しているか。 ② 市教育委員会は同賞受賞を小中学校の授業にどう活かしているか。また夏休み登校日の平和教育はどのように実施しているか。 ③ 鳥羽市教育ビジョンでは平和教育をどのように位置づけているか。 ④ 文化芸術振興基本法と本市の文化芸術振興計画の存否、文化芸術振興条例制定の方向性はどうか。 ⑤ 文化芸術振興基本法は「児童、生徒等に対する文化芸術に関する教育の重要性」を謳っている。子どもたちに対する文化芸術鑑賞についての本市の取り組み状況と強化策はどうか。 <市長、教育長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	9 番	氏 名	戸 上 健
件名及び 要 旨	○ 市長の市政執行 2 期 8 年について 市長は 2 期 8 年の任期を間もなく終えられる。この間、私の一般質問に対する以下の事項について、これまでの検討の結果及び市長の考えを聞く。 ① 子ども医療費の窓口での無料化 ② 18 歳までの医療費の無料化 ③ 学校給食費無償化 ④ 高齢者へのタクシー券、公共交通無料パスの導入 <市長>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	尾 崎 幹
件名及び 要 旨	○ 道路多重化の重要性について 令和6年6月の一般質問において、災害発生時に救急車等、緊急車両の通行ルートの確保の為、消防本部として、道路の多重化が重要であるとの答弁であった。 これらの答弁を踏まえ、以下の点について聞く。 ① 自然災害により鳥羽駅周辺が通行止めとなった場合の想定について ② 防火地域、準防火地域指定等の重要性、必要性、及び重点防火指導対象地域の指定以外の鳥羽市独自の取り組みについて ③ 消防から見た空き家問題について <担当課長>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	尾 崎 幹
件名及び 要 旨	○ 補助幹線道路の重要性について 令和6年6月の一般質問において、災害発生時に救急車等、緊急車両の通行ルートの確保の為、消防本部として、道路の多重化が重要であるとの答弁であった。また、建設課の答弁においても、豪雨災害等で国道42号線が寸断された場合、市役所周辺から、やきめし坂を迂回するルートは補助的な役割を持つ重要な道路であるとの答弁であった。 これらの答弁を踏まえ、以下の点について聞く。 ① 補助幹線道路の事業化について ② 大規模災害時により国道42号線が寸断された場合の一時緊急輸送道路（県道37号線又は第二伊勢道路）への接続性の担保について ③ 道路啓開作業による復旧だけでなく、発災前の予防措置について ④ 建設行政を担う立場から、補助幹線道路の重要性をどのように考えているか。 <担当課長>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	尾 崎 幹
件名及び 要 旨	○ 防災の観点から見た空き家対策、補助幹線道路等の整備について 空き家対策、補助幹線道路の整備について、防災の観点から見た検討が必要である。 そこで以下の点について聞く。 ① 防災・減災の観点から、総務課として老朽化した空き家の解体、補助幹線道路の整備、防火地域等の指定について重要性をどのように認識しているか ② 大規模災害想定 of 自衛隊の展開や支援物資搬入路など図上訓練、台風等の災害について減災の取り組みはどうか ③ 火災焼失後に解体されずに放置された建物、放火等の犯罪の温床となりかねない廃ホテル等、老朽化し倒壊が予見される建物、家財が散乱し道路の通行に支障をきたす事象、落石や土砂崩れ、倒木の危険が予見される山の斜面、このような「危険なもの」に対する他の課との情報共有や連携状況は <担当課長>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	尾 崎 幹
件名及び 要 旨	○ 管理不全な不動産について 令和6年6月の一般質問において、空き家問題はすべての担当において決して無関係でないと認識したが、建物だけでなく山林等を含めた不動産全般について同じことが言えると考えます。 そこで以下の点について聞く。 ① 空き家、崖、山林等について管理が不適切な場合、所有者への催告だけでは不十分でないか ② Jクレジット制度を活用することによって荒廃した天然林の保全活動になるのではないか ③ 空き家対策、危険な崖等、荒廃した山林について今後の具体的な取り組みは <副市長>			

発言通告者	議席番号	1 2 番	氏 名	尾 崎 幹
件名及び 要 旨	○ 防災指針について 補助幹線道路の整備や、緊急輸送道路へのアクセスなど、災害時における救急搬送、緊急物資の輸送など、道路のインフラの整備が市民の安心安全な生活に大きく寄与する。また未然の災害発生防止対策は殊更重要である。 補助幹線道路の必要性について市長の考えは。 ① 駅周辺再開発に際して景観悪化、防犯、災害予防、環境保全での観点から管理不全な不動産（土地、建物）に対し対策は ② 能登半島地震、同地域での豪雨災害などを加味したうえで、防災指針にどのように反映させるか <市長>			

発言通告者	議席番号	2 番	氏 名	山 本 欽 久
件名及び 要 旨	○ 中之郷棧橋の廃止による現状と課題について 市営定期航路における中之郷棧橋の廃止は、離島の住民だけでなく中之郷のまちにも大きな影響を及ぼした。廃止後の現状と今後について、地域の住民の関心も高く、多くの課題が残っていると感じる。 このことから、以下について聞く。 ① 定期航路における財政状況や船員不足の問題について ② マリンターミナルから中之郷へのかもめバスの乗り継ぎについて <市長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	1 番	氏 名	世 古 雅 人
件名及び 要 旨	○ 用途廃止した公有財産の現状及び有効活用について 人口減少や少子高齢化の進行、行政ニーズの多様化により必要性や規模が見直され使用変更や用途廃止となった公共施設が多くなっている。 その中でも、特に課題となるのは児童・生徒の減少による学校規模の適正化の流れの中で廃止となった学校施設である。 それらの施設を迅速かつ有効的に活用・処分を図るべきであるが、現状はどうか。また、活用に向け協議や検討がどのようにされているのかを含め、以下の点について問う。 ① 「統廃合に関連して、保育所の児童数と小・中学校の児童生徒数の推移」について ② 「統廃合による小・中学校の現状と学校統合計画における最終年度までの見込み」について ③ 「学校統合再編により廃校となった学校施設の現状」について ④ 「福祉施設の現状と今後の見込み」について ⑤ 「地元町内会や地域住民、企業等からの要望」について ⑥ 「今後の廃校舎等の利活用を推進するための方策」について ⑦ 「市の公共施設の利活用及び財産処分の取りまとめ部署、要望方法、協議する組織」について ⑧ 「鳥羽市公共施設等総合管理計画における財産処分等の管理等」について ⑨ 「公共施設の処分等にかかる全庁共通のメルクマール（目印）の作成」について <市長、副市長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	1 1 番	氏 名	坂 倉 広 子
件名及び 要 旨	○ 肺炎の予防対策について 国の令和５年人口動態統計で死因別に死亡数を見てみると、肺炎は令和５年の死因順位第５位の疾患である。肺炎は、高齢者になるほど重症化しやすいことから、予防に力を入れ、少しでもリスクの低減に努めることが重要だと考える。 肺炎の原因は多様であるが、今回は次の点から市の予防対策について聞く。 ① 高齢者肺炎球菌ワクチンについて。 ② COPD（慢性閉塞性肺疾患）の予防について。 <市長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	1 1 番	氏 名	坂 倉 広 子
件名及び 要 旨	○ 女性目線による安心安全のまちづくりについて 今年、元日に発生した能登半島地震においても避難所の環境が問題となった。避難所生活の中で、女性や高齢者から「困ったこと」など、さまざまな意見があり、特に女性ならではの視点から、避難所生活の改善点など多くの要望が寄せられた。 また、内閣府の避難所運営ガイドラインでは避難所運営委員会等を設置し、女性がリーダーシップを発揮しやすい体制を確立することや避難所の運営において女性の能力や意見を生かせる場を確保することが示された。 そこで、以下の点について問う。 ① 鳥羽市防災危機管理室における女性職員の配置状況について。 ② 発災時における女性や子ども、高齢者が必要とされる備蓄品の設置状況について。 ③ 能登半島地震を踏まえ、国は「防災基本計画」を令和6年6月に修正した。それを受け鳥羽市においても「鳥羽市地域防災計画」を見直す考えはあるのか。 ④ 能登半島地震の経験を踏まえ、避難所におけるパーティションや段ボールベッド等の早期の設置、生活用水の確保、また、より快適なトイレの設置など避難所における質の高い環境整備が求められている。鳥羽市における取組状況はどうか。 <市長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	1 3 番	氏 名	世 古 安 秀
件名及び 要 旨	○ 鳥羽市の教育について 人口減少や少子高齢化が進む中でも、これからの鳥羽市を担う人財の育成は益々重要になってきます。 そこで今後、鳥羽市の教育行政をどのように進めていくのか、以下の点について問う。 ① 鳥羽市が目指す「子ども像」について ② 全国学力・学習状況調査について ③ 不登校児童生徒について ④ 英語教育について ⑤ 鳥羽市出身者の人財のネットワーク化について <市長、教育長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	6 番	氏 名	濱 口 正 久
件名及び 要 旨	○ 市民の生命と財産を守るための施策について 市民の生命と財産を守ることは重要であり、行政として施策展開していくことは当然の責務であると考えている。 これから鳥羽市に住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりが必要であり、安心して暮らしていくためには医療、交通、防災における安全確保は必須であり、その上で産業を守ることは必要不可欠であると考えている。 そこで、以下の項目について問う。 ① 命と産業を守るインフラ整備について ② これからの地域医療について ・医療M a a Sの現状と課題とこれからの考えは ③ 子どもの命を守る施策のその後について ・児童虐待の現状と課題及び取組の成果は ④ 市民の生命と財産を守るためのドローンに利活用について ・ドローンを活用した産業や災害への活用の可能性は <市長及び担当課長>			

発言通告者	議席番号	7 番	氏 名	山 本 哲 也
件名及び 要 旨	○ 市長公約の総括について 市長は令和6年9月議会において次期市長選挙への出馬表明をされた。 2期目の任期も最終盤となり、これまでに市長公約の実現に向けて様々な取組を進めてきたが、公約を達成することができたのか。また、その効果や成果についてどのように認識しておられるのか総括が必要であると考えます。 そこで以下の点について聞く。 ① 市長公約として挙げた7項目の総括について ② 達成度とその効果について ③ 自己評価について ④ 市民からの評価について <市長>			

発言通告者	議席番号	1 0 番	氏 名	木 下 順 一
件名及び 要 旨	○ 教育長の辞職について 教育長の辞職に至る経緯を含め以下の点について聞く。 ① なぜ任期中のこのタイミングで辞職されるのか、又その理由は ② 辞職後の後任人事について ③ 教育行政（業務）への影響等について <市長及び教育長>			